

伊福部敬子 評論家、児童文學者。明治二十一年一月十六日福井縣生れ、昭和四十六年没（一九九一—一九七二）。本姓富山。大正七年東京女子高等師範學校中退。伊福部隆輝（隆彦）と結婚とその後離婚、既い評論家として知名の伊福部姓は更へなかりた。厚生省社會局嘱託、全國民生委員連盟參事、東京都児童福祉審議會委員等々務めた。

著書に『若き父・若き母に語る』（昭和十一年一月二十一日教材社）、『母なれば』（昭和十一年五月二十一日教材社）、『若き母に語る』（昭和十四年五月二十五日教材社）、『母の世紀の序』（昭和十五年五月二十日京都・積文社）、小説『母なれば』（昭和十六年一月二十五日教材社）、隨筆集『母の幸福』（昭和十六年十一月八日新踏社）、『母性の歴史』（昭和十七年九月五日新踏社）、『母と子の記録』（昭和十八年七月十五日金鈴社）等。

